

2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2022年2月4日

上場会社名 塩水港精糖株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2112 URL http://www.ensuiko.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 久野 修慈
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 小田 俊一 (TEL) 03-3249-2381
 四半期報告書提出予定日 2022年2月4日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	19,271	5.3	712	△17.4	683	△18.7	427	△21.6
2021年3月期第3四半期	18,294	△8.3	862	△20.0	840	△21.8	545	△24.0

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 297百万円(△51.3%) 2021年3月期第3四半期 609百万円(△11.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	15.74	—
2021年3月期第3四半期	20.12	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	26,240	10,099	38.5
2021年3月期	27,239	9,922	36.4

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 10,099百万円 2021年3月期 9,922百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,300	△1.6	450	△54.2	530	△52.2	370	△52.3	13.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	35,000,000株	2021年3月期	35,000,000株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	7,773,675株	2021年3月期	7,845,675株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	27,189,932株	2021年3月期3Q	27,131,589株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う断続的な緊急事態宣言発令の影響により、経済活動の抑制を余儀なくされました。今後についてもワクチン接種の進展に伴い経済回復への兆しが徐々にみられていたものの、新たな変異ウイルス、オミクロン株の発生により新規感染者数は急速に再拡大しており、先行きは未だ不透明な状況が続くものと見込まれます。

このような環境の中で、当社および当社グループはお客様、地域社会、関係取引先、従業員およびその家族の安全と健康を確保することを最優先に、生活必需品である砂糖や、オリゴ糖をはじめとした機能性素材等の製品を、非常時においても安定して消費者の皆様にお届けすることを第一義に考え、お客様のおなかの健康に貢献する「おなかにやさしい会社」として、年度計画達成に向けて全力で取り組んでまいりました結果、当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

①砂糖事業

海外原糖市況は、ニューヨーク市場粗糖先物相場（当限、1ポンド当たり）において14.71セントで始まり、砂糖主要生産国ブラジルの干ばつによる供給懸念に加えワクチン接種の進展による世界経済への回復期待から商品相場へ投機資金が流入し、相場は上昇傾向で推移しました。11月には天候不順による大豆や小麦など農作物の相場上昇による影響も受け、一時20.69セントの高値を付けましたが、その後はブラジルの降雨により供給増の見通しが強まり、需給緩和が意識されて値を下げ、18.88セントで当第3四半期連結累計期間を終了しました。

国内市中価格（日本経済新聞掲載、上白大袋1kg当たり）は、期初192円～193円で始まり、海外粗糖相場の高騰や海上運賃の上昇を受けた結果、198円～199円にて当第3四半期連結累計期間を終了しました。

精糖およびその他糖類など国内販売は、家庭用製品では一時的な巣ごもり需要が発生したものの、砂糖需要の漸減傾向は続き、低調に推移しました。一方、業務用製品は外食産業向けや土産品向けの販売が回復基調に転じたことから売上高は前年を上回りました。

以上の結果、砂糖事業全体の売上高は17,826百万円（前年同四半期比6.2%増）、原材料コスト等の上昇に伴いセグメント利益は1,148百万円（前年同四半期比21.1%減）となりました。

②バイオ事業

オリゴ糖部門は、コロナ禍における健康志向の高まりを受け、特定保健用食品「オリゴのおかげ」シリーズの販売が好調に推移、特に大容量タイプの伸張が著しく、販売数量は前年を上回りました。一方で第1四半期連結会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用したことから売上高は前年同四半期を下回りました。

サイクロデキストリン部門は、受託加工品の販売が低調に推移したことから、売上高は前年同四半期を下回りました。

その他、「奇跡の野菜といわれるビーツをドリンクにしました」に続く新製品「ドライビーツチップ」などを「REDBEET」ブランドとして新発売、ビーツ製品のラインナップを拡充しました。引き続きビーツの国内認知度向上そして需要拡大に向け、積極的に取り組んでまいります。

以上の結果、バイオ事業全体の売上高は1,409百万円（前年同四半期比3.9%減）、セグメント利益は386百万円（前年同四半期比26.4%増）となりました。

③その他

その他の事業につきましては、ニューE S Rビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用に努めました結果、売上高は99百万円（前年同四半期比1.9%減）、セグメント利益は45百万円（前年同四半期比4.5%減）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は19,271百万円（前年同四半期比5.3%増）、営業利益は712百万円（前年同四半期比17.4%減）、経常利益は683百万円（前年同四半期比18.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は427百万円（前年同四半期比21.6%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

①資産

流動資産合計は前連結会計年度末に比べて577百万円減少し、9,312百万円となりました。これは主に、現金及び預金が1,121百万円減少し、受取手形及び売掛金が609百万円増加したことによるものです。

固定資産合計は前連結会計年度末に比べて422百万円減少し、16,927百万円となりました。これは主に、有形固定資産が257百万円、投資有価証券が190百万円それぞれ減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて999百万円減少し、26,240百万円となりました。

②負債

負債合計は前連結会計年度末に比べて1,177百万円減少し、16,140百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が395百万円増加した一方で、短期借入金が350百万円、長期借入金が994百万円それぞれ減少したことによるものであります。

③純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて177百万円増加し、10,099百万円となりました。これは主に、利益剰余金が292百万円増加し、その他有価証券評価差額金が136百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2021年5月7日付「2021年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」にて発表いたしました業績予想に変更はありません。

本資料に記載されている業績見通し等将来に関する記述は、当社グループが現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,897	3,775
受取手形及び売掛金	1,557	2,166
商品及び製品	1,034	1,080
仕掛品	224	190
原材料及び貯蔵品	1,016	890
その他	1,159	1,208
流動資産合計	9,889	9,312
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	10,174	10,195
減価償却累計額	△7,171	△7,343
建物及び構築物(純額)	3,003	2,852
機械装置及び運搬具	11,780	12,151
減価償却累計額	△10,024	△10,248
機械装置及び運搬具(純額)	1,756	1,902
工具、器具及び備品	419	428
減価償却累計額	△357	△371
工具、器具及び備品(純額)	62	56
土地	5,234	5,234
建設仮勘定	266	20
有形固定資産合計	10,324	10,067
無形固定資産		
ソフトウェア	61	37
その他	6	6
無形固定資産合計	67	43
投資その他の資産		
投資有価証券	4,697	4,507
長期貸付金	1,387	1,421
繰延税金資産	790	818
その他	83	69
投資その他の資産合計	6,958	6,816
固定資産合計	17,350	16,927
資産合計	27,239	26,240

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	640	1,036
短期借入金	4,800	4,450
1年内返済予定の長期借入金	2,080	2,064
未払法人税等	130	81
未払消費税等	42	133
賞与引当金	68	33
その他	1,092	948
流動負債合計	8,854	8,747
固定負債		
長期借入金	7,776	6,782
退職給付に係る負債	450	373
繰延税金負債	2	5
その他	233	232
固定負債合計	8,462	7,392
負債合計	17,317	16,140
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,750	1,750
資本剰余金	233	221
利益剰余金	11,645	11,938
自己株式	△3,004	△2,976
株主資本合計	10,625	10,933
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△702	△839
繰延ヘッジ損益	0	2
退職給付に係る調整累計額	△0	3
その他の包括利益累計額合計	△702	△833
純資産合計	9,922	10,099
負債純資産合計	27,239	26,240

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	18,294	19,271
売上原価	14,535	16,308
売上総利益	3,758	2,963
販売費及び一般管理費	2,895	2,251
営業利益	862	712
営業外収益		
受取利息	19	19
受取配当金	112	112
その他	7	15
営業外収益合計	138	147
営業外費用		
支払利息	66	76
持分法による投資損失	62	70
支払手数料	26	29
その他	6	1
営業外費用合計	161	176
経常利益	840	683
特別損失		
固定資産売却損	2	—
特別損失合計	2	—
税金等調整前四半期純利益	838	683
法人税、住民税及び事業税	236	224
法人税等調整額	55	30
法人税等合計	292	255
四半期純利益	545	427
親会社株主に帰属する四半期純利益	545	427

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	545	427
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	73	△134
繰延ヘッジ損益	△1	1
退職給付に係る調整額	△5	5
持分法適用会社に対する持分相当額	△2	△3
その他の包括利益合計	63	△130
四半期包括利益	609	297
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	609	297

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、従来は売上原価、販売費及び一般管理費に計上しておりました販売促進費等の一部を、売上高から控除しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は612百万円、売上原価は47百万円、販売費及び一般管理費は565百万円それぞれ減少しております。なお、利益剰余金の当期首残高への影響はありません。

また、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	16,769	1,438	85	18,294	—	18,294
セグメント間の内部売上高 又は振替高	13	27	16	57	△57	—
計	16,783	1,466	101	18,351	△57	18,294
セグメント利益	1,455	305	47	1,808	△946	862

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	17,805	1,378	—	19,184	—	19,184
その他の収益(注3)	—	—	87	87	—	87
外部顧客への売上高	17,805	1,378	87	19,271	—	19,271
セグメント間の内部売上高 又は振替高	21	30	12	63	△63	—
計	17,826	1,409	99	19,335	△63	19,271
セグメント利益	1,148	386	45	1,580	△868	712

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3 その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸収入等でありま
す。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「砂糖事業」の売上高は516百万円、「バイオ事業」の売上高は96百万円それぞれ減少しております。なお、「砂糖事業」「バイオ事業」のセグメント費用が同額減少するため、セグメント利益に与える影響はありません。